

# 杏林大学

→ KYORIN UNIVERSITY

## グローバルな視野と 地域での実践力を養い 次代を担う協働型人材を育てる 「地(知)の拠点」大学

2016年4月、創立50周年を迎えた杏林大学は、東京三鷹市に井の頭キャンパスを開設。保健学部、総合政策学部、外国語学部、大学院が八王子キャンパスから移転し、医学部がある三鷹キャンパスと合わせ、全学部が三鷹市に集まることになった。この地で、多様な学部を擁する総合大学として杏林大学が展開する教育とは？「グローバル」と「地域」、この2つをキーワードに探っていこう。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／平山 諭



### 教育のスローガンは Moving global, staying local

衛生検査技師養成のための短期大学として医療教育を原点にスタートした杏林大学は、現在は、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の4学部を擁する総合大学だ(図1)

大学病院がある三鷹キャンパスには、医学部と保健学部看護学科看護学専攻が置かれ、新しく開設された井の頭キャンパスには、保健学部(看護学専攻以外)、総合政策学部、外国語学部の3学部が置かれている。両キャンパスは非常

図1 杏林大学の学部・学科

|        |                |
|--------|----------------|
| 医学部    | 医学科            |
| 保健学部   | 臨床検査技術学科       |
|        | 健康福祉学科         |
|        | 看護学科 看護学専攻     |
|        | 看護学科 看護養護教育学専攻 |
|        | 臨床工学科          |
| 保健学部   | 救急救命学科         |
|        | 理学療法学科         |
|        | 作業療法学科         |
|        | 診療放射線技術学科      |
| 総合政策学部 | 総合政策学科         |
|        | 企業経営学科         |
| 外国語学部  | 英語学科           |
|        | 中国語学科          |
|        | 観光交流文化学科       |

に近い位置関係となり(図2)、学生や教員の行き来もスムーズになった。

このキャンパス移転は、杏林大学が取り組んでいる大学改革・教育改革の一環だ。キャンパス・施設の整備に加え、教育の面では、“Moving global, staying local”を掲げた改革を推進。「グローバル」と「地域」、一見相反するベクトルを指し示しているように思えるこの2つのキーワードを包含した杏林大学の教育とはどのようなものなのだろうか。

### 外国語学部では日中英の トライリンガルを育成

まずは、「グローバル」の切り口から、同大学の特色をみていこう。グローバル教育は4学部すべてに共有するテーマだが、なかでも牽引役を担うのは外国語学部だ。学部長の坂本ロビン教授は外国語学部が育成を目指すグローバル人材像について、次の点を強調する。

「グローバルコミュニケーションの基本は言葉です。英語が必要なのはもちろんですが、ビジネスの世界では、中国語のニーズも大きくなっています。そのた

図2 三鷹市に位置する2つのキャンパス



め、本学部では日中英トライリンガルの育成を大きな目標としています」

外国語学部では、英語学科、中国語学科、観光交流文化学科の全学科で中国語が必修。学科別に英語、中国語それぞれ目標となる検定のスコアが設けられている(図3)。どちらかに習熟し、もう一方も日常会話レベルに到達することを目指すのは全学科共通だ。

留学も積極的にサポートしている。今年度は英語圏、中国語圏の52の大学と協定を結んでおり、留学中の杏林大学の学費が8割免除となる半年～1年間の派遣留学、セメスター留学をはじめ、全学部・学科の2年生以上を対象とした幅広



④ 外国語学部 学部長 坂本ロビン教授

い留学制度が充実。学部ごとに10日~3週間程度の海外研修制度も多数ある。

### 学部の約半数が留学を経験！ 留学しても4年で卒業できる

外国語学部は2年生の約半数が留学を経験。中国語学科は、2016年度、9割が留学する予定だという。語学検定のスコアなどの条件や人数の制限は原則設けられておらず、留学先で修得した単位を卒業単位に組み込めるので、1年間留学しても4年間で卒業可能だ。

「渡航前は不安げな様子だった学生も、日本語が通じない場所に1人で行き、自分で考え、行動する経験を重ねること

でたくましくなって帰ってきますね。留学は自分を成長させる大きなチャンス。できるだけ多くの学生に経験してもらいたいです」(坂本教授)

帰国した学生は、留学先で磨いた現地の言語で、留学経験について後輩たちの前でプレゼンテーション。先輩たちの瑞々しい体験談が後輩たちを刺激し、留学への意欲を高めているという。

ゼミ単位での海外研修や、海外インターンシップの制度もあり、在学中に二度、三度と海外経験を重ねる学生もいる。

また、井の頭キャンパスでもグローバルコミュニケーションの経験値を高められる環境が整っている。中国やアメリカからの留学生も多く、多国籍なメンバーが英語でディスカッションする授業も多数。学内の同時通訳演習スタジオでは、3カ国語が飛び交う国際会議さながらのシチュエーションで同時通訳のトレーニングもできる。さらに、ネイティブ教員や留学生と会話できる英語サロン、中国語サロン、いつでも英文の添削が受けられるライティングセンターなど、施設も充実している。

「国際交流イベントや地域の外国人を対象としたボランティア活動などにも、学生は積極的に参加しています。授業以外にも、英語、中国語に触れる機会が豊富なので、自分でプランを立て、主体的に学ぶことが大切ですね」(坂本教授)

グローバル人材育成を標榜しているのは他学部も同様だ。

総合政策学部では、2016年度から、論理的思考などのビジネススキルや経済、経営などの専門科目を英語で学ぶ「グローバル・キャリア・プログラム(GCP)」を導入。留学も含め、4年間でグローバルに通用するスキルを徹底して磨いていくプログラムだ。

### 地域を意識して自分の 学びやキャリアを考える

次に、「地域」に関してはどのような教育が行われているのかをみていこう。

杏林大学は、「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」というテーマで、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択され、2013年度より、これを柱に、東京都三鷹市、八王子市、羽村市の各地域と

図3 日中英トライリンガル人材を育成する外国語学部

**ステップ1: 語学教育**

グローバル人材を目指すにあたり、語学は大前提となるスキル。日本語・中国語・英語の3言語を使いこなせるトライリンガルを目標に学んでいく。そのため、中国語学科はもちろん、英語学科・観光交流文化学科でも中国語が必修となっている。

**ステップ2: スキルアップ**

総合政策学部や大学院と連携して、日本を含めたアジアの歴史や文化、経済・産業などを多角的に学ぶ。あわせてケーススタディの演習などのアクティブ・ラーニングを通して、相手と対等に交渉し、創造的な結論を導き出せる能力を習得する。

**ステップ3: 留学**

英語圏(英語学科)、中国語圏(中国語学科)への留学経験を通して、高度な語学力とコミュニケーション能力(スマートでタフな交渉能力)を身に付ける。外国語学部の全ての学科で定数の半分以上が卒業までに留学体験することを目標としている。

**● 学生が習得すべき語学力**

| 中国語                        |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 中国語学科<br>(日中通訳<br>翻訳プログラム) | ● HSK5級以上<br>(中国一流大学入学レベル) |
|                            | ● 中国語検定2級以上                |
|                            | ● 通訳案内士(中国語)               |
| 英語学科<br>観光交流<br>文化学科       | ● HSK2級以上<br>(日常会話レベル)     |
|                            | ● 中国語検定4級以上                |

※ HSK(中国政府公認の中国語資格)は6級が最上位級

| 英語                         |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 中国語学科<br>(日中通訳<br>翻訳プログラム) | ● TOEIC® 500点以上    |
|                            | ● TOEFL iBT® 52点以上 |
|                            | ● IELTS 4.5点以上     |
| 英語学科<br>観光交流<br>文化学科       | ● TOEIC® 800点以上    |
|                            | ● TOEFL iBT® 80点以上 |
|                            | ● IELTS 6点以上       |



学内では授業以外にも国際交流の機会が豊富にある。「このような文化や価値観の異なる人たちとのコミュニケーションを通して、学生には、外国人の視点で客観的に日本の文化や考え方などを見つめ直す力を養ってほしいですね。それこそがグローバルコミュニケーションで最も大切なことですから」(坂本教授)



## COLUMN

## 4学部合同で学ぶ1年次必修科目「地域と大学」

大学4年間を通して、地域との様々な協働を経験するのに先立って、「地域における大学の役割」「地域を取り巻く課題」「杏林大学の地域協働に関する考え方や取り組み（杏林CCRC）」について学ぶのが、全学部で初年次教育として必修となっている「地域と大学」だ。

2016年度は、井の頭キャンパス開設にともない、半期4回を全学部合同で行う授業がスタート。

1000人規模の学生が同キャンパスの7つの教室に分かれ、厚生労働省OBや三鷹市職員など行政の関係者・担当者を招いた講義を受けたうえで、学部が混在するようにグループを構成したアクティ

ブ・ラーニングなどに取り組んだ。

「まず最初に、地域というものが、これからの大学での学びと切り離せないものなんだということを知ってもらうための科目です。他学部の学生とグループワークに取り組むことは、多様な考え方をもち人たちとコミュニケーションするトレーニングにもなっていますね。今までは、キャンパスが離れていたこともあり、例えば、外国語学部の学生と医学部の学生が交流する機会などほとんどありませんでしたから」（古本准教授）

この科目で基礎を習得し、2年次以降は専門科目を学びながら、実際の地域課題にチャレンジすることになる。



KJ法を採り入れたグループワークの様子。それぞれの学部の視点から、活発に意見を出し合う

協働し、地域に貢献する様々な取り組みが全学的に行われている。

2016年度から4学部合同での授業が始まった1年次必修科目「地域と大学」もその一つ（コラム）。また、各学部のゼミやプロジェクト演習系科目では、学生が地域の行政、団体、企業、商店街などと協働し、地域の課題解決に取り組むプロジェクトが多数進められている。

「グローバル時代にあっても、私たちの多くは日本で生活し、働きます。医療はもちろん、どんな仕事も地域やそこに住む人々と無関係ではありません。学生には、自分の学びやキャリアを考えるときに、「地域」を意識するようになってほしいと考えています」（地域交流推進室 室長／古本泰之准教授）



① 地域交流推進室 室長  
外国語学部 観光交流文化学科 古本泰之准教授

### 大学で学んだことを実際に地域の現場で試してみる

都市部であっても、地縁のない高齢者の増加、コミュニティの弱体化など、課題は山積している。地域に入り、実際にそれらの課題を目の当たりにすることが、学生にとっては、「何のために学ぶのか」を理解するきっかけになる。

また、このような地域での実践は「学びの実質化」にも直結すると古本准教授は言う。

「学生が大学で学んだことを、実際に地域で活用できる企画にすることを重視しています。例えば、マーケティングのゼミであれば、マーケティングの知識を生かしてどのような課題解決ができるかを考え、実行していく。教員も、教室で学んだことが実際に社会でどのように役立つのかを体験的に理解できるよう、学生一人ひとりをサポートします」

地域との協働に取り組んだ学生は、コミュニケーション能力、多様な人たちと意見をすり合わせる力、プレゼンテーション能力などが大きく成長する。地域活動で得た気づき

が、その後のキャリアを決定づけたケースも少なくないという。

今、課題を抱えた地域は、本気で関わってしてくれる若者を求めている。その意味で、地域で大学が果たせる役割は非常に大きい。地域にとっても学生にとっても未来につながる関係がそこでは築かれているのだ。

### 「グローバル」と「地域」は決して対置する関係ではない

では、杏林大学のグローバル人材育成と地域での学びとはどのようにリンクしているのだろうか。古本准教授は「グローバルとローカルは決して対置する関係にはありません」という。多様な人たちとコミュニケーションしながら、課題を解決していくという点では、両者に求められるものは実は共通している。

“Moving global, staying local”というスローガンは、世界で学び、地域でそれを活かすという意味でもあり、世界で活躍しながら、地域で育んだ日本人としてのアイデンティティを大切にするという意味でもある。それはまさに、これからの時代に求められる人材像を示唆しているといえるだろう。